

令和3年度 第1回 公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会の結果について

令和3年7月15日（木）に開催しました、公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会の概要は下記のとおりです。

記

- 1 開催日時 令和3年7月15日（木） 14時から16時15分
- 2 開催場所 佐賀市役所 大財別館 4階 4-3会議室
- 3 出席者
 - ・公益財団法人佐賀市文化振興財団第三者評価委員会：8名
委員長：高島忠平
委員：石丸義弘、重松恵梨子、徳永浩、富吉賢太郎、
平尾洋美、福成有美、峰悦男
 - ・公益財団法人佐賀市文化振興財団：5名
 - ・事務局：6名
- 4 議 題 令和2年度 実績評価について
 - (1) 自己評価
 - (2) 質疑応答
 - (3) 採点
 - (4) 集計
 - (5) 総合評価・意見交換
- 5 報告 事業改善計画（令和3年度～令和7年度）について
- 6 会議の公開又は非公開の別 公開
- 7 傍聴者数 0名
- 8 議事録（概要）

(1) 自己評価（文化振興財団）

《 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 自己評価表 》 公益財団法人 佐賀市文化振興財団 R2年度実績

◎判定の基準

【A】 高い成果を収めている 【B】 概ね良好な成果を収めている 【C】 向上の余地がある。【D】 見直しが必要である 【E】 抜本的な見直しが必要である

評価項目	評価資料Ⅱ	自己評価	コメント(評価の理由等)
1) 施設管理に関すること			
① 必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	P20.21.27～29	B	適切な保守点検、修繕や感染症対策を実施し、利用者の安全確保に努めた。
② 利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	P1～8		利用者数・稼働率ともに新型コロナの影響により目標には及ばなかった。催物の中止が、文化会館は397件、東与賀文化ホールは53件であったが、文化会館52件・東与賀文化ホール9件の日程変更をすることで利用者数・稼働率の減少を少しでも抑えることができた。
③ ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	P24		ホームページ、フェイスブック、広報誌「新風」、タウン誌により感染症対策ガイドラインの周知を行った。中止や延期となったイベントの情報発信も行った。
2) 自主文化事業に関すること			
④ 文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	P9～16	B	新型コロナウイルス感染症の影響拡大のため、定員の50%に入場者を制限して公演を実施する事となった。
⑤ 地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	P9～16		文化会館では新型コロナウイルス感染症により老健施設や介護施設でのアウトリーチが出来なかった。そこで、市内2児童館、幼稚園1カ所に於いて、幼児と保護者を対象にしたアウトリーチを実施した。
⑥ 将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	P9～16		文化会館では市内中学校2校の吹奏楽部で、サクソフォンとホルンというプロ管楽器奏者を派遣して、演奏指導を取入れたアウトリーチを行った。東与賀文化ホールではプロのピアニストによる演奏と鍵盤やハンマーの構造を分解して触ってみるワークショップを行った。
⑦ 地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	P9～16		文化会館では伝統芸能である講談を声優も務める講師による親子で楽しめるものと、初めて俳句を題材に取り上げたワークショップを行った。佐賀市民芸術祭では地元Vレ教室5団体の演目を上演した。新型コロナウイルス感染症により公演出来ない状況であったので、出演者やスタッフの感染予防の徹底と団体間の接触や密を回避して出演出来る環境を整備して行った。
3) 財務に関すること			
⑧ 市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	P19.22.23	B	オフィシャルパートナー企業は昨年と同じ11社。(一財)地域創造の助成による公共ホール音楽活性化事業(公演とアウトリーチ)を実施した。 コロナの影響による利用料金減少に対して、中小企業庁持続化給付金を受給した。文化庁の文化施設の感染症予防対策事業補助金の交付を受けて空気清浄機や非接触体温計などを準備した。
⑨ 積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	P1.11～18		新型コロナの影響で、文化事業収入・利用料金ともに目標に達していないが、延期や広い会場に変更することで入場者数、稼働率の減少幅を少しでも抑えることができた。
⑩ 経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	P19～21		新型コロナの影響で、催物がなくなった分、常駐の委託費をそれぞれの実情に合わせて減額したり保守点検の削減をして経費の節減に努めた。また、稼働率減により光熱水費が大きく減少した。 臨時職員を6月から1名、12月から1名減らした。
前回の委員会「R2年度の課題」		課題への対応状況	
<p>①今後1～2年、新型コロナは続くと思われるので、新生活に対応するよう事業計画を見直し、それに基づく目標設定をすべきでは。</p> <p>②オンライン、デジタル化、感染対策など</p> <p>③大きなイベントができない分、これまで一緒に何かをやることがなかった人たちと小さなイベントをたくさんやるのはどうか。</p> <p>④アフターコロナ、ウィズコロナ下での文化事業の在り方を真剣に考えておく必要がある。</p> <p>⑤コロナ禍で自主事業等の実施が厳しいと思われるが、感染防止策等を講じながら実施に向けて努力されたい。</p> <p>⑥正味財産300万円の死守(通期目標として)</p>		<p>①ホール定員の50%以内での公演を実施した。</p> <p>②オンラインについては佐賀市民芸術祭でYoutubeによるライブ配信を行った。感染症対策については手指消毒、カメラや体温計による検温、密を避けた座席配置と入退場など手段と方法を徹底し、十分な人員を配置する事で万全な対応を行っている。</p> <p>③中央児童センターと東与賀児童館、それぞれとの連携事業として初めてアウトリーチを行った。平日午前11時に乳幼児同伴で参加出来るプログラムに地元演奏家によるリミックスコンサートを財団から提案して行った。</p> <p>④新型コロナ感染症対策のガイドラインを作成し、徹底した。今後は、動画配信なども検討していきたい。</p> <p>⑤オーケストラやポピュラーバンド、ミュージカルやVレなど出演者側の人数が多い演目も新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止されたものもあった。少人数でできるソリストやデュオによるリサイタル、落語や講談などを感染症対策を徹底して行った。</p> <p>⑥経費節減と文化事業の収支改善を行った。合わせて佐賀市からの補填と支援をお願いした。</p>	
R2年度に高い実績を収めた事項		R3年度に向けた課題	
初の試みとして、佐賀市民芸術祭の全公演を動画配信した。		<ul style="list-style-type: none"> ・2024国民スポーツ大会、全国障がい者スポーツ大会に向け、佐賀市と連携して施設整備を進める。 ・文化会館、東与賀文化ホールの文化事業の数値目標達成。 ・文化事業収入の増加。 ・動画配信での公演実施。 	

【佐賀市文化振興財団による自己評価の説明】

1) 施設管理に関すること

- ・令和 2 年 4 月 16 日に全国に緊急事態宣言が発出されたことにより、佐賀市の公共施設は 4 月 22 日から 5 月 10 日まで臨時休館となった。また令和 2 年度の施設使用状況については、文化会館は中止が 397 件、日程変更が 52 件、利用料金の減収額が約 56,820,000 円、入場者数が約 163,400 人の減となった。東与賀文化ホールについては、中止が 53 件、日程変更が 9 件、利用料金の減額が約 3,350,000 円、入場者数が約 11,500 人の減となった。2 館の合計で利用料金が約 60,170,000 円、入場者数は約 175,000 人の減となっている。ただしこのデータはあくまで事前に予約があったものである。
- ・文化会館及び東与賀文化ホールについて、改修工事期間中に利用者に影響が出ないように、佐賀市役所及び工事関係者と協議を行いながら進めていく。
- ・令和 2 年度の文化会館の利用者数は、令和元年度と比べて 279,970 人減少し 101,666 人となり、目標の 24.21%にとどまった。これは新型コロナウイルスの影響による公演の中止や日程の変更により入場者数が予定より約 163,400 人の減となっていることが影響している。東与賀文化ホールの利用者数については、令和元年度に比べて 33,122 人減の 23,346 人、目標の 34,000 人の 68.66%となっている。これも同様に新型コロナウイルスの影響により 11,501 人の利用者が減っている影響によるものである。
- ・文化会館の稼働率は目標の 75.00%に対して 42.30%となっている。ただし 11 月以降は多少なりとも戻ってきているのではないかと感じている。東与賀文化ホールの稼働率については、目標の 61.30%に対して 42.72%となっている。こちらも 11 月以降少しずつ戻ってきているのではないかと感じている。

2) 文化事業に関すること

- ・文化会館では体験活動事業として 3 企画 5 公演、学校等へのアウトリーチ 10 カ所、主催事業 9 企画 10 公演実施している。目標入場者数 15,000 人に対し、2,280 人の入場者となっている。下半期に主催事業 9 公演行ったが、ほとんど中ホールで収容人数を半分に制限しての公演のため伸びなかった。主催事業は、目標に達するように調整をしていたが、出演者側の意向により延期をしたものがあったことにより、目標には達しなかった。事業を企画して準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止せざるをえなくなった公演がアウトリーチで 2 カ所、主催事業で 4 公演あった。ワークショップは目標を達成している。アウトリーチは、コロナの影響で会場側の意向もあり予定していたものが中止になり、目標に達していない。
- ・東与賀文化ホールについては、体験活動事業 3 企画 6 公演、学校等へのアウトリーチ 3 カ所、主催事業 10 企画 13 公演実施している。目標入場者数 2,800 人に対し、2,297 人の入場者数となっている。こちらもホールの収容人数を半分にして実施しているため、目標に達していない。新型コロナウイルスの影響により公演を中止したものがあつた。また、一般財団法人地域創造の公共ホール活性化事業が採択され、アウトリーチを含め公演を実施している。文化事業は目標を達成している。

3) 財務に関すること

- ・財団の職員の状況については、令和 2 年度末時点で正規職員 10 名臨時職員 4 名となっている。

- ・オフィシャルパートナーについては、令和元年度に引き続き 11 社であった。令和 3 年度についても引き続きお願いし、了解をいただいている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による舞台等の縮小に伴い、委託業者への委託料等を減額した。また、臨時職員の配置も見直し、6 月から東与賀文化ホールで 1 名、12 月から文化会館で 1 名減とした。政府の持続化給付金や、文化庁のマスク・消毒液などの消耗品への購入補助を受けている。
- ・利用者支援として、佐賀市において文化芸術活動支援事業制度を設置され、その受付業務を財団が行っている。
- ・利用料金収入については、文化会館は目標の 43.74%、東与賀文化ホールは目標の 62.86%にとどまり、目標に達していない。
- ・指定管理料は、文化会館は目標の 122.16%、東与賀文化ホールも目標の 111.50%となっている。新型コロナウイルス感染症の影響による利用料金の激減により、市から文化会館に令和元年度分で 7,150,000 円、令和 2 年度分で 28,600,000 円、東与賀文化ホールに令和元年度分の 470,000 円の補填があっている。

(2) 質疑応答 (概要)

委員 佐賀市民芸術祭での動画配信について、この試みは市民芸術祭だけだったのか。それとも他の事業でも実施したのか。

財団 動画配信を行ったのは、佐賀市民芸術祭のみ。その他の公演については、肖像権・著作権等の問題があり実施していない。

委員 動画配信をする時は、どのような告知を行ったか。

財団 市民芸術祭の動画配信については、佐賀県が LiveS Beyond という動画配信チャンネルを作っていたため、そこにリンクを貼らせていただき、動画配信の告知を行った。その他タウン誌の MOTEMOTE、事前に配布した芸術祭のチラシにも記載した。

委員 新型コロナに対する対応として一番大変だったことは何か。

財団 事業については、8 月にワークショップを行ったが、それまで 4、5 月に計画していた事業がほぼ中止になり、その分の代替公演をできれば 10~11 月にできないかと事務所と交渉したが、なかなか感染状況の終息が見えないなかで、特にバレエやミュージカル等大所帯での公演については保証ができないと事務所から言われたのが一番厳しかった。逆に感染者数が落ち着いたときにソリストや合同リサイタルは実施できるが、この時期は購入動向が少なく、行って大丈夫なのだろうか心配をされ、券売が伸びなかった。ソリストであれば実施できても、インパクトが足りないというのもあった。

財団 施設管理については、行事等の中止が相次ぎ、収入の大部分となる使用料が入ってこなかった。経費削減と佐賀市に損失補填をお願いした。

委員 入場制限等はどう決めるのか。

財団 国、県、佐賀市の施設に関する考え方をベースに、財団で作成したガイドラインで収容人数を 50%制限としている。貸館でこられる方にも最初から 50%制限で約束をしている。ただ、今年度に入ってなぜ佐賀市だけ 50%制限なのかというご意見をいただいたことがあったが、その後緊急事態宣言が各地に出されたこともあり、そういった声も少なくなった。お客様の中には席を空けるべきと言われる方もまだいらっしゃる。そのこともあり、100%に戻すのは慎重に佐賀市と協議をしながら判断していく必要があると感じている。東京オリンピック開催後の状況を見て検討することになると思う。

委員 文化会館は何百人というお客様が集まる場なので、入退場の際にどうしても混みあっ

てしまうと思うが、そこあたりは何か対策をしているのか。

財団 貸館の際には、大ホールの入場口の手前に共用スペースがあるが、そこにパーテーションを置き、足元には立ち位置を示すシールを貼っていただいた。また事業によっては席番が決まっているものがあり、その場合は、例えば「1階の何列目の方まではここでお待ちください。」というようにアナウンスされていた。しかし自由席の場合は難しいため、並ばれた時は極力1メートル間隔で空けていただくように主催者側が説明されたり、貸館の打ち合わせの際にはくれぐれも感染対策はよろしくお伝えとお伝えしている。退場の際は自主文化事業においても、「後方の何列目から何列目の方はご退場ください。」というように、ブロックごとに退場を促すアナウンスを主催者側が行った。

委員 文化会館のイスは布製になっているため消毒の作業がなかなか難しいと思うが、その消毒にかかるコストはけっこうかかるのではないか。

財団 たしかに布製なので、毎回拭けるわけではない。手すり等拭けるところは委託している清掃業者をお願いしている。汚れた場合は何年かに1回クリーニングをしている。ただ毎回というわけにはいかないもので、難しいところだと感じている。先程委託業者への減額を申し上げたが、清掃業者については回数は減ったものの、コロナ対策をしてもらっているため減額はしていない。

委員 文化会館に支払われている自主文化事業補助金1,000万円の充当の考え方はどうなっているのか。

財団 文化会館の自主文化事業については、アウトリーチとワークショップは無料で行っているため、こちらについては経費に補助金を充てている。鑑賞型の事業については、チケットの販売があるため、入場料金と収支を見た際に令和2年度はコロナ禍で厳しかったが、令和元年度もしくは平成30年度については公演によってはかなり入場者数が多く、ほぼ完売した。かつ経費についてはなるべく抑えることができ、その事業単独でみると収支としては収益が出たものがあるため、それについては充てていない。委託料についても、昨年と比べてかなり減額しているが、その分5,000円のチケットが売れるわけではないので、1,000円や500円のチケットの積み上げで入場料収入となる。その場合、事業単独でみると収支は補助金を充ててもマイナスになる公演も出てくる。そのため1,000万円の補助は入場料のない事業への充当と、入場料のある事業については収支がマイナスであったところに充てている状況である。

委員 ということは、中には余剰金が出るものもあるということか。

財団 過去に遡ると、自主事業としては収支がプラスになっているものもたしかにあった。

委員 自主事業積立資産1,800万円と自主文化事業補助金1,000万円の関係はどうなっているのか。

財団 自主事業積立資産については令和元年度まではあったが、昨年度のコロナ禍の中で経営上運転資金としてどうしても必要があったため、これは取り崩しを行い、昨年度の決算で0円となっている。この積立資産については、補助金があつて黒字の時に積み立てていたというわけではなく、開館当初補助金の取扱いについてまだ明確に決まっていなかった時期に市に返還していなかった2,000~3,000万円を、自主事業以外には使わないということでこういう項目を設けていた。

(3) 採点 (4) 集計 (5) 総合評価

委員 動画配信を始めたことはとてもいいことだと思う。今後動画配信やライブ配信は欠か

せないものになっていくと思っている。今後客を入れる公演であったとしても、合わせて配信を行うのが定着していくと思う。

委員 最初ライブ配信の良さがわからなかったが、先日開催した講演会で実施してみたところ多数の方に聴いていただいた。ライブ配信のいいところとして、会場までの交通費がかからない、移動しなくていい、子どもがいても見られるということが挙げられる。結果収益性はかなり上がっているのではないかと思う。

委員 動画配信は、出演者の事務所との問題や著作権、肖像権等の問題などがあり難しいところもあるが、インスタグラム、フェイスブック、ユーチューブは同時に配信でき、あまり経費がかからないというメリットがある。ユーチューブで動画配信をやるんだったら、インスタグラムやフェイスブック等他のSNSや他の動画配信サービスも使って同時配信したほうがいいと思う。

委員 最近の動画配信ではいわゆるお捨りを視聴者からもらえる投げ銭サービスが定着しており、その収入が期待できる。今後文化会館で公演をする際に動画配信でもチケットを販売し、投げ銭サービスを利用するという仕組みで収益化が図れるようであれば、それに対応できる事業も今後考えていかれるといいと思う。

委員 動画配信のない以前のような状態には戻らないというのは念頭に置いておかなければならない大切なことだと思う。ただ、先日他市で行われた公演を見にいったとき、生の舞台はやっぱりすごいと感じた。楽しみ方も人それぞれなので、そこは動画配信と生の舞台の両方で考えていかなければいけない。

委員 感染症対策については、先日の他市での公演は満席で5公演行われたが、あれは何も問題なかったのか疑問に感じた。

委員 本質は、生の人間が舞台上でやってそれを観客に伝えることだということであり、そのことを忘れてはいけないと思う。一番よくわかるのは、舞台中継をテレビで見たら面白くないということ。舞台そのものを映画にしたものを過去に見た記憶があるが、それはそれで面白いけれどもやはり生の舞台とは違うなと感じる。

委員 今度佐賀にアリーナができ、そこでイベントをやる可能性がある。その場合文化会館の意味合いも変わってくると思う。

委員 今のように制限があったり、うまくいかない時に新しい価値が生まれてきやすいと思う。動画配信もなんとかしなきゃと思ってスタートしたと思う。生で見ることの素晴らしさは見ればわかる。しかしコロナの影響で私は自分の意志で県外の公演に行かないという選択をしたが、医療従事者の方はどうしても行けなかったと思う。それでも行けない人たちは見たいという想いがある。文化を広く伝えていく手法として、生で見ることができない時にその選択肢があることは一つの価値だと思う。だからこの行けなかったからこそこの手法が生まれたということかなと思う。その期間を跨いだ私達が何を残すかということと、何を選択するかということと同時に考えていかなければいけないと思う。さきほどアリーナのお話があったが、アリーナは数千人入るということで、今まで文化会館の大ホールでコンサートをやられていた方たちがより集客がとれるアリーナに移る可能性もある。その差別化も考えていかなければいけない。アリーナは今作られているので、動画配信等の対応もなされる可能性もある。しかしこっちはそうではない。そういう見わけもあるかもしれない。私は先日国立バレエを動画配信で見たが、構図の動画の取り方やただ写すのではなく、どこでどのタイミングで何を写すのか、そういうところが芸術なのかなと思う。もしかすると文化会館で公演をされる際にそこに強みがあるとするならば、著作権等の問題はあろうと思うが、ここ

にも一つの価値をつけていくいいチャンスなのかなと思う。

委員 アウトリーチをやったと思うが、小学校・中学校に行かれるにあたって実施されるのは、音楽が多いと思う。ただ私は「にわか」とかは子供たちは見たことないし、わからないような言葉を喋っているかもしれない。できるのであれば、音楽だけに偏らずに広く芸術に触れられるような機会があったらいいなと思う。小学校・中学校は義務教育なので親の価値観に影響されないで平等に触れられる機会だと思う。ただそれを公民館でやっても行く家庭もあればそうではない家庭もあると思うので、学校に出向くからこそ幅広く芸術に触れられるような機会があったらいいなと思う。

委員 写すという行為は、そこにカメラワークという演出があり、写すという意味を考えないといけない。

評価項目		満点	得点計	得点率	判定
1) 施設管理に関すること		240	186	77.5	B
①	必要な保守点検、修繕、管理を行い、施設・設備の機能維持と利用者の安全確保に努めているか。	80	70	87.5	-
②	利用者目線で運営することを意識し、利用しやすい施設となるよう改善を図ることで、利用者の満足度が高いサービスを提供し、稼働率、利用者数を増加させることができたか。	80	54	67.5	-
③	ホームページ、広報誌をはじめ様々なメディアを通し、広く施設及び事業の情報提供を行うことができたか。	80	62	77.5	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内で感染を出していないことを評価する。 ・コロナ禍なので、「できることを」と考えるとオンライン化をもう少しチャレンジしてみてもよかったかもしれない。 ・目標自体が高すぎたのではないか。 				
2) 自主文化事業に関すること		320	234	73.1	B
④	文化事業の入場者数を増やし、文化に親しむ市民層の拡大に貢献することができたか。	80	52	65	-
⑤	地域の文化サークルの作品展示、文化祭等の地域特性を活かしたイベントの開催支援や、福祉施設などでの芸術文化に触れる機会の提供を通して文化振興を図ることができたか。	80	62	77.5	-
⑥	将来の文化を担う子ども・青少年を育成する、鑑賞・体験事業を実施できたか。	80	66	82.5	-
⑦	地元出身芸術家の起用、市民参加型のイベントの企画、発想の転換による新しい企画を打ち出すこと等により、地域文化の活性化を図ることができたか。	80	54	67.5	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・困難な状況下努力がうかがえ、実績を上げている。 ・入場者数増は難しいかもしれないが、収入に繋がる、文化に触れる機会をぜひ増やしてほしい。 ・ワークショップのバラエティある取組は続けてもらいたい。 				
3) 財務に関すること		240	180	75	B
⑧	市内企業からの協賛金、国や関連団体等による助成金等を積極的に獲得し、事業に活用することができたか。	80	60	75	-
⑨	積極的な情報提供やセールスにより、文化事業の入場者数、稼働率の向上に努め、文化事業収入、利用料金収入を増加することができたか。	80	56	70	-
⑩	経費の縮減を図り、経営の効率を高めることができたか。	80	64	80	-
委員コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・オフィシャルパートナー等の参加企画を増やしてはどうか。 ・この経済状況の中、オフィシャルパートナーを維持できたことは大きい。 ・収入増においても文化の価値創造についても、コロナ禍を今後のチャンスに繋げるためには様々なチャレンジが必要かもしれない。 ・目標自体が高すぎたのではないか。 ・できる努力、工夫をされている様に思う。 				
◆総合		800	600	75	B
◆総合評価					
高い実績を収めた事項			令和3年度の課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況で鑑賞・体験事業を実施され、成果を上げている。 ・感染防止も図られ、後半は公演の延期等もあり、入場者の増が見られた。 ・全体において、コロナの状況下でよく頑張られたと評価したい。 ・経営努力と市との交渉もあり、一定の事業効果（自主事業等）も見られる。 ・アウトリーチの定着、ワークショップのバラエティある取組は高く評価できる。 ・新しく動画配信を試みた点は評価できる。 ・経費削減とそのための工夫はよく考えられていると感じる。 ・コロナ禍において、アウトリーチの数（機会）はよく実施されていると感じる。 			<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ収束の見通しが立たない中、施設の利用、芸術文化活動の促進策を新たな課題として欲しい。 ・今後の公演にあたって、アンケートの結果もあり、若者向きのコンサート、また、男性の入場者が少ない。 ・他財団等の助成金の活用は図れないか。 ・厳しい状況の中、新しい発想で、新たなチャレンジをという考え方もありますが、今はできることを地道にやる時なのかな、とも思います。あまり大きくやり方を変えず、コロナが終息し、以前のやり方に戻った時に、また調整が必要になるのは大変かと思しますので、今年度も、小さな工夫をしつつ、継続することが何より大切かと思います。 ・新しい運営の在り方を真剣に考える時だと思う。コロナ前には戻らないということを念頭において、思い切った方策を打ち出せればと思います。 ・今後は、現地での公演とライブ配信の共存が定着していく事が考えられるので、これに対応を検討頂きたい。 ・コロナ禍の状況で、日常生活を送る事で精一杯のなか、文化の持つエネルギーが相対的に低くなったように思う。新しい発想から生まれる想像が生まれる予感もある。そんな方向から文化施設の果たすべき役割を見直してもよい。 ・コロナ収束までの文化事業、芸術、舞台の価値創造（観ること聴くことをオンラインなど他のツールを使ってできないか。） ・アウトリーチ、「音楽」に偏っている様に思われる。「にわか」やその他演劇なども幅が広がっていくとよりよいと感じる。 		